



学校法人 濱名山手学院
神戸山手女子中学校高等学校

教育シンポジウム

日時：2021年11月27日(土)

後援 神戸市 大阪市教育局 日本私学教育研究所

本日の予定

1. 教育講演会

講演① 平井 正朗 神戸山手女子中学校高等学校校長

With/After コロナ世代のカリキュラム・マネジメント
～産学協働による個別最適化学習の構築に向けて～

講演② 浅野 大介 経済産業省サービス政策課 課長/教育産業室 室長
デジタル庁 統括官付参事官

教育DX「未来の教室」をつくろう

2. パネルディスカッション

浅野 大介 経済産業省サービス政策課 課長/教育産業室 室長
デジタル庁 統括官付参事官

川本 祥生 大阪市教育委員会総務部長

木村 健太郎 株式会社リクルート まなび教育支援 Division 支援推進2部 部長
兼 支援企画部 セールスイネーブメントグループ マネージャー

加藤 理啓 Classi 株式会社 代表取締役社長

平井 正朗 神戸山手女子中学校高等学校校長

3. 公開授業&検討会

授業番号	教科名	場所	担当者	単元	内容
授業①	国語	中学1年1組	石元 仁	古文入門	デキタスを利用して仮名遣いや文法の理解度を確認し、古文学習の導入をします。
授業②	社会	中学3年1組	大屋 梓沙	公民 貧困問題	デキタスを活用して世界地理の復習および定着。ほぼ日のアースボールを用いて世界の貧困について考えを深めます。
授業③	数学	高校2年2組	花山 裕行	微分法の応用	ロイロノートを用いて接線の方程式の求め方を理解し、Qubena数学ⅠAⅡBを利用して演習を行います。
授業④	理科	中学2年1組	石本 彩	気象データ解析	デキタスとロイロノートを併用し、日本の天気の特徴を調べる授業を実践します。
授業⑤	英語	高校1年3組	山田 茉麗奈	関係代名詞	スタディサプリEnglishを使って、関係代名詞を自分のものにできるようにします。
授業⑥	探究	高校1年1組	永田 明子	未来探究 ゼミナール	観光予報DS (Data Science) を利用して新しい提案を発表します。

授業番号	教科名	指導員		アドバイザー	
授業①	国語	佐々木 誠	入試センター長	伴 英輔	(株)城南進学研究社 教育ソリューション 事業部リーダー
授業②	社会	福永 博行	社会科主任	神保 博行	(株)城南進学研究社 教育ソリューション 事業部マネージャー
授業③	数学	中村 昌義	進路指導部長	畑 広明	河合塾 高校事業企画部 事業・商品開発チーム
授業④	理科	中谷 卓司	教頭	柴田 修	(株)城南進学研究社 教育ソリューション 事業部リーダー
授業⑤	英語	山崎 吉朗	日本私学教育研究所 主任研究員	森川 銀汰	(株)リクルートDivision支援 推進2部 チームリーダー
授業⑥	探究	甘利 摩美	グローバル探究 教育推進副部長	鷲見 匡紀	(株)JTB 神戸教育 旅行センター 所長

4. スケジュール

時間	スケジュール
9:00～10:25	教育講演会（講堂） 講演① 講演②
10:35～11:25	パネルディスカッション（講堂）
11:45～12:35	公開授業（詳細は上記参照）
12:35～13:15	昼休み（SKY ROOM 開放）
13:15～14:05	検討会（詳細は上記参照）

国語科 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 石元 仁
場 所：341教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35
2. 対 象： 中学1年1組 14名
3. 科目名： 国語
4. 単元名： いにしへの心にふれる～古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える～
（入門期の古文）

5. 授業観について

○生徒観

国語に対して苦手意識を持っている生徒もいるが、授業に対しては比較的前向きな生徒が多い。授業中に積極的な発言を行う生徒はあまり多くはないが、じっくりと考え物事に取り組む生徒は多い。個々の学力差が見受けられるため、きめ細かい配慮を要する。

○教材観

本単元は学習指導要領の指導事項である【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】に対応している。

生徒にとって、本単元は中学校において初めて古文について学ぶ単元であり、原文とあらすじを交互に読み進めながら、『竹取物語』の全体構成に触れられるようになっている。入門期の古文教材として適する教材である。

○指導観

古文に苦手意識を持たせぬよう、古文学習の導入を行い、基本事項を習熟させたい。

- ・ 古文の基本事項を習得させるため、デキタスを使用し、個々の学力に応じた学習（個別最適化）を主体的に行わせ、生徒が自主的に学習に取り組んでいく姿勢を養わせる。
- ・ 音読を反復させ、仮名遣いや特有のリズムになれさせる。
- ・ 古語の意味を理解させ、自らの力で現代語訳を作成させる。

6. 指導計画

- (1) いろは歌・仮名遣いの確認（デキタス「歴史的仮名遣い」視聴学習を指示）…1時間
- (2) 『竹取物語』の冒頭部「かぐや姫の生い立ち」…1時間（本時）
- (3) 『竹取物語』の「蓬萊の玉の枝」の部分…3時間
- (4) 『竹取物語』の「富士山の由来」の部分…1時間

7. 本時の指導目標

- ・ 語感を磨き語彙を豊かにできている。【知識・技能】
- ・ 歴史的仮名遣いや古文独特の表現を習得できている。【知識・技能】
- ・ 他者の音読を聴き、正しく読めているか確認し合っている。【思考・判断・表現】
- ・ デキタスを使って古文を習得・理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

8. 教材

教科書『国語1』（光村図書）
資料集『国語便覧（兵庫県版）』（浜島書店）
デキタス（株式会社城南進学研究所）
プリント

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタスの歴史的仮名遣いについての学習(前時の宿題)について復習する。 ・『竹取物語』について、昔話の『かぐや姫』であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題を、ロイロノートを使用して出題し、生徒に解答させ提出させる。学習の定着度を確認する。なお、定着度の低い生徒には、再度デキタスで振り返るよう指示する。 ・まんが日本昔話や au のコマーシャルを例に出し、昔話の『かぐや姫』をイメージさせる。 ・他の昔話も紹介し、古文を身近なものとして感じさせる。
展開 ①	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の原文をロイロ送信で受け取る。ペアワークで音読し合い、疑問箇所印を入れる。 ・QR CODE を使用し範読を聴き、仮名遣いのルールや区切れを確認する。 ・教師の指示に従いながら、音読を行う。 ・個人練習を行う。 ・音読をロイロ提出するよう指示を受ける。 ・うまく音読できるようになった生徒はロイロ提出を行う。 ・クラスメートの音読を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古文の原文をロイロ送信し、音読の際の疑問点や区切れ目の分からないところをチェックさせる。 ・竹取物語の冒頭部の範読を QR CODE を使用させ聞かせる。 ・範読を聞かせ、個人練習させる。練習時には、机間巡視を行う。 ・生徒の読み方が正しくない場合は、正しく修正する。ハ行転呼音、「む」「うつくし」「ゐ」に注意をしながら、その場で間違いを指摘し、直させる。 ・ロイロノートに提出箱を作成し、提出の指示をする。 ・音読を提出した生徒の中から1名の音読データを選び、聞かせる
展開 ②	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタスで学習内容の確認を行う。 ・「古文の読解」の動画授業をスクリーンで視聴する。 ・「古文の読解」の動画授業の復習として、配付されたプリントを埋め、現代語訳の仕方や古語特有の表現を知る。 古文の主語の区別がつくようになる。 現代語と古語で大きく意味の異なる言葉について正しく意味・イメージを理解する。 時代と共に言葉の持つイメージの変化を実感する。 ・「古文の読解」の動画授業一度で理解できた生徒は○×チェックの学習を行う。 視聴したがよく理解できなかった生徒は、もう一度 iPad を用いて動画授業を視聴し、理解できた上で、○×チェックの学習に進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デキタス「古文の読解」の動画授業視聴後、プリント配付。生徒が埋め終えた後、助詞の補い、古典の単語の知識などの説明をする。生徒のプリントにも記入させる。 ・特に主語の後の助詞が省略されるケースが多いことを注意喚起する。どれが主語かわからない生徒には、述語を見つけて、主語に助詞「が」を補うというヒントを与える。 ・ハ行転呼音、「む」「うつくし」「ゐ」など、特に覚えてほしいものを印象づける。 ・「あやし」「うつくし」「ゐる」は現代語とはイメージの異なる古語であるため、特に覚えるよう、注意を払い説明する。他には「ながむ・眺める」などもあり、その例をあげ、時代とともに言葉の持つイメージが変わることを伝える。 ・個別最適化学習の教具として活用する。生徒ごとに解くスピードが異なるため、全員が「古文の読解」の○×チェックを終えた生徒は、先に進んで学習させ、「古典の単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習するよう指示する。 基本内容は確実に、応用内容は学習の進んでいる生徒に対して促していく。 ・途中までしかできなかった生徒へ、授業終了後、先に進むよう指示する。
まとめ	4分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りを行う。 <p>本日の復習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的仮名遣い」「古典の単語」「古文の読解」「正しい音読」について、生徒に学習の振り返りを行わせる。 ・音読の課題確認と生徒自身が学習の不足部分と感じている点を、デキタスを使用し、復習するように促す。 ・「古典の単語」⇒「基本問題」⇒「チャレンジ問題」⇒「キミ問」の順で学習することを確認させる ・各自の補強ポイントをまとめた「キミ問」を必ず学習するよう指示する。

社会科（公民的分野） 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 大屋 梓沙
場 所：343教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35
2. 対 象： 中学3年1組 16名
3. 科目名： 公民的分野
4. 単元名： 第5章 地球社会と私たち 2節：様々な国際問題 3. 貧困問題

5. 授業観について

○生徒観

2コースが1つのクラスのなかに混在しており、内訳は特進コースの生徒が10名、進学コースの生徒が6名である。授業に前向きに取り組む生徒も多く、進学コースの生徒も積極的に発言ができる。

時おり、解答に自信がないときは反応が薄くなることもあるが、必要に応じて助言を与えることにより、考えをまとめることができる。

○教材観

生徒たちは第1・第2学年で地理・歴史、第3学年で歴史・公民を学ぶ予定である。夏休み中のスタディデイズ（勉強合宿）にて、デキタスを利用した復習に取り組んだ。3学期に行われる実力考査（併設高校への入試にかわる試験）に向けて、3つの分野の知識の復習・定着を目指す。また、立体的に地理的情報が見られる「ほぼ日のアースボール」を使い、iPad アプリでコーヒーの生産地・消費地やその特徴を読み取り、新たに得た知識をロイロノートでまとめ、共有する。

○指導観

第1学年で学んだ内容は、長期休暇で復習しても忘れる生徒が多く、基本的な地理の知識を持つ生徒も、公民での抽象的な概念になると苦手とする生徒も多い。そこで、導入としてデキタスを使い、地理の復習をすることでクラス全員を同じスタートラインに立たせたい。デキタスは、自分がミスした問題を集めて「キミ問」が自動的に作成され、何度も取り組むことができる。その結果、どのような学力層の生徒でも自分の弱点克服に向けて、スモールステップで正答率を上げていくことができ、学力向上を実感できる教材となっている。また、生徒たちの身近にある例として、アフリカのモノカルチャー経済を支えた「コーヒー」をテーマに、世界の貧困を多面的多角的にとらえ、その解消に向けて自分たちにできることを考えられるようにしたい。

6. 指導計画

第5章 地球社会と私たち 2節：様々な国際問題

- (1) 地球環境問題…1時間
- (2) 資源・エネルギー問題…1時間
- (3) 貧困問題…1時間（本時）
- (4) 新しい戦争…1時間
- (5) 難民問題…1時間

7. 本時の指導目標

フェアトレードについて意欲的に課題を見いだして追究している（社会的事象への関心・意欲・態度）
2種類のチャートを使い、貧困問題を解消するための自分の考えをまとめる（社会的な思考・判断・表現）
ほぼ日のアースボールを使って、コーヒー豆の生産地・消費地の特徴をつかむ（観察・資料活用の技能）
デキタスを使って復習することで、3年間の知識を定着できている（社会的事象についての知識・理解）

8. 教材

教科書『新しい社会 公民』（東京書籍）
デキタス（株式会社城南進学研究所）
ほぼ日のアースボール・対応アプリ（株式会社ほぼ日）

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	5分	今日のテーマを確認する ・公民の教科書 P.198「貧困問題」を開く ・“人口の急増と貧困を音読する ・ハンガーマップの読み取り ・“世界の貧困問題(4行目まで)”を音読する	・ハンガーマップから栄養不足の人がアフリカに多いことを読み取らせる ・貧困問題が深刻化しているのもアフリカであることを確認させる
展開 ①	10分	・中1地理のアフリカ州を復習 デキタスのアフリカ州：基本問題を解く →10問出来たら間違った問題の解説を読む →キミ問コレクションでやり直す →チャレンジ問題にまで進むのが目標	デキタスにログインさせ、範囲を提示する 復習チェックシートを記入させ、進度を把握する 5分経った段階で、進度別に指示をする ・進度の遅い生徒 →○×チェックからやり直させる ・進度の早い生徒 →キミ問・ピックアップチャレンジで復習させる ランダムモードまで進めてもよい
展開 ②	10分	コーヒーの生産と消費にまつわる問題を学ぶ ・アフリカのコーヒー産地 ・ほかの産地と共通する特徴 ・モノカルチャー経済の背景	ほぼ日のアースボールアプリの起動確認をさせる ・4人班を作り、ワークシートを配る ・「でこぼこコーヒー」を使って、コーヒーの産地の代表的な国名（特にアフリカ）を調べ、「コーヒーベルト」の特徴をまとめさせる ・消費地の特徴をワークシートにまとめさせ、生産地と消費地の格差を視覚的にとらえさせる ・デキタスでも出題された「モノカルチャー経済」の歴史的背景について、生徒たちに質問する
展開 ③	20分	貧困の原因を考える ・ロイロノートの「くらげチャート」にまとめる →教科書から探す 貧困解決のための一案・フェアトレードを学ぶ ・フェアトレード（公正貿易）とは何か ・具体的な企業の取り組み例 →フェアトレードが広まることで、何が変わるかを考え、「キャンディチャート」にまとめる 貧困状態にある発展途上国を救うために自分ができることを考える（※フェアトレード以外でも可）	・ベースとなる「くらげチャート（貧困をなくすためにできることは?）」のデータを配布する ・黄色のカードに教科書の言葉をそのまま使って貧困の原因を書き出させる →わかりやすく端的にまとめたり、自分でも別の要因を考えて書いたりすると加点すると伝える ・できた人から、緑のカードの課題もするように指示する ・生徒たちにとって身近なスターバックスコーヒー・ジャパンの取り組みを紹介する →フェアトレードを含めた方法で、エシカルなコーヒー豆の調達にほぼ100%成功したことを伝える ・「キャンディチャート」のデータを配布し、自分の選んだピンクのカードを中央に配置させ、そう考えた理由を右側の黄色のカードに記入させる →例) 食料の不足：適正な給料がもらえれば、食料を買えるから。 教育の機会：学校に通うお金ができるから。 子供が働かなくてもすむから。 →早くできた生徒には、フェアトレードの問題点があるとすれば何か、考えさせる 例) フェアトレード商品は高価に感じる、など ・身近なことで自分にできることを1つ考えさせる →時事研究の授業の一環で、先日行われた Table For Two のおにぎりアクションも一例として示す
まとめ	5分	中3公民の生産と消費に関する範囲を復習 デキタス：生活を支える経済 私たちの消費生活、生産と企業、労働 →○×チェックをする →満点取れなかった者は授業動画を家で見てくる	・地理的分野と公民的分野で重複している内容に取り組んできたので、最後は公民的分野からの視点に落とし込ませる ・平常授業の進度に合わせて復習させる ・○×チェックで満点を取れるようになった生徒には基本問題に取り組むよう指示する

数学科 学習指導案

授業者：神戸山手女子高等学校 教諭 花山 裕行
場 所：323教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35

2. 対 象： 高校2年2組 30名

3. 科目名： 数学Ⅱ

4. 単元名： 微分法と積分法（第6章）

5. 授業観について

○生徒観

数学に対して前向きに取り組んでいる生徒が多いクラスである。しかし、理解度の差は激しく、少し高いレベルの内容を取り扱うことの出来る生徒もいるが、基本的な事項もなかなか理解しにくい生徒もいる。クラス内でお互いに教え合う関係性があるため、理解しにくい生徒もしっかりと前向きに取り組んでいる。

○教材観

本単元の内容は、微分法と積分法の基本である。単元の前半は3次関数を中心に、関数の平均変化率の意味を考え、導関数の基本的性質、グラフの概形の書き方について理解する。また、後半の内容は積分法である。不定積分と定積分の意味について理解し、これを用いて定積分が、関数とx軸で囲まれた部分の面積と一致することを学んでいく。こうした内容を受け、次学年で学ぶ数学Ⅲの微分法と積分法の応用につなげていく。また、物体の瞬間の速さ、容積や体積の最大、最小など具体的な事象に対応できるようになる重要な単元である。

○指導観

本単元の指導にあたっては、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、問題解決的な学習の際はペアでの活動の時間を設ける。また、復習教材とし Qubena を用いて理解を深めると共に自主的な学習活動をうながしていく。関数とその導関数との関係を考察し、多項式関数 $f(x)$ の増加、減少及び極値を調べ、そのグラフの概形を理解するために、関数の値の増加、減少と導関数の関係を接線の傾きと関連付けて考察したり、導関数のグラフと元の関数のグラフを関連付けて考察したりすることを常に強調する。さらに、自ら考え、行動する数学的活動を、関数の増減・グラフの応用や定積分と面積などで取り入れる。Qubena のワークブックでその日の学習の復習を取り組むとともに、学習が先行している生徒に関してはラーニングで個別最適化を図る。また、授業を理解できていない生徒にも、先行している生徒が教えることで、問題を解決したときの達成感、満足感を味わせ、意欲的に数学の授業に取り組ませたい。

6. 指導計画（全26時間）

(1) 微分係数と導関数…7時間（本時6/7）

・微分係数（2時間）・導関数とその計算（3時間）・接線の方程式（1時間）（本時）・まとめ（1時間）

(2) 関数の値の変化…7時間

・関数の増減と極大・極小（3時間）・関数の増減・グラフの応用（3時間）・まとめ（1時間）

(3) 積分法…10時間

・不定積分（2時間）・定積分（3時間）・定積分と面積（4時間）・まとめ（1時間）

7. 本時の指導目標

- ・導関数を用いて微分係数を求め、接線の方程式を求められるようになる。
- ・グラフ上にない点から引いた接線の方程式を求められるようになる。
- ・Qubena を用いて、復習、定着を図る。

8. 教材

教科書『新編数学Ⅱ』（数研出版）

問題集『計算ドリル数学Ⅱ基本から標準編』（数研出版）

Qubena 数学 I A II B（株式会社 COMMPASS、河合塾）

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	5分	<p>前回の振り返りとして、復習プリントを解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 接線の傾きを求める。 直線の方程式を求める。 <p>配信された解答を見て確認する。</p> <p>以前に習った公式を理解し、本時の目標を確認する。</p>	<p>復習プリントを解かせる。</p> <p>机間巡視をして進み具合を確認する。</p> <p>出来ていない生徒にはヒントとして傾き = $f'(x)$、直線の方程式は $y - y_1 = m(x - x_1)$ あることを与える。</p> <p>解答を配信し、確認させた上でロイロノートに提出させる。 $y = f(x)$ の関数において $m = f'(a)$ が接線の傾きになることを確認させる。</p> <p>理解度を確認しながら、黒板に接線の方程式の公式を貼り、本時の目標の確認につなげる。</p>
展開 ①	15分	<p>例題3を用い、$y = f(x)$ 上の $x = a$ における接線の方程式の求め方を理解する。</p> <p>練習13の問題を解き、自分で丸付けをする。</p> <p>早く解き終わったら、Qubenaのワークブックに取り組む。</p>	<p>例題3の問題のロイロノートを用いて解説する。 $x = a$ のとき、y 座標は $f(a)$、接線の傾きは $f'(a)$ であることを理解させ、$y - f(a) = f'(a)(x - a)$ が $y - y_1 = m(x - x_1)$ と同じであることを理解させる。</p> <p>答えを写すだけにならないようにする。</p> <p>机間巡視をしながら、詰まっている生徒にアドバイスをあてる。</p> <p>早く終わっている生徒がいたら、Qubenaのワークブックに取り組むように促す。その際に、ペアで教え合いながら、互いの理解度を上げていくように指導する。</p>
展開 ②	25分	<p>応用例題1を用いて、グラフ上にない点から引いた接線の求め方を理解する。</p> <p>練習14の問題を解く。</p> <p>解答を確認しあいながら、丸付けをする。</p> <p>早く解き終わったら、Qubenaでワークブックの続に取り組む。</p> <p>Qubenaのワークブックが終わったら、ラーニングの問題に取り組む</p>	<p>応用例題1の問題のロイロノートを用いて解説する。</p> <p>例題3との違いを確認させる。</p> <p>接点の座標がわかれば、例題3の公式を用いて、接線の方程式が求められることを確認する。</p> <p>接点がわからないときは、接点の x 座標を文字でおき、例題3の公式を用いて、接線の方程式が作れることを確認する。その接線が定点に代入することで接点の座標が求められることを確認する。</p> <p>応用例題1を確認しながら、練習14を解かせる。</p> <p>手が止まっている生徒がいたら、接線の方程式を作ることができないのか、接点の座標を求めることができないのかを確認しアドバイスをあてる。</p> <p>周りと教えあいができる場を作る。</p> <p>Qubenaのワークブックの続きに取り組むように促す。</p> <p>引き続き、周りで教え合いながら、互いの理解度を上げていくように指導する。</p> <p>また、机間巡視をして Qubena の進み具合を確認する。手が止まっている生徒には、アドバイスをあてていく。</p>
まとめ	5分	<p>本時の授業を振り返る。</p>	<p>$f(a)$ と $f'(a)$ のちがいをおさえ、$x = a$ における接線の方程式の求め方を確認する。</p> <p>接点の座標があてられている時は、その数値を代入し、接点の座標がわからない時は、x 座標を文字でおき、接線の方程式を作ること確認する。</p> <p>Qubena を用いて、繰り返し取り組むことが定期考査の取り組みにつながることを確認する。</p>

理科 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 石本 彩
場 所：342 教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35
2. 対 象： 中学2年1組 18名
3. 科目名： 理科
4. 単元名： 地球の大気と天気の変化

5. 授業観について

○生徒観

理科に苦手意識を持っている生徒はやや多いが、授業に対しては前向きな生徒が多い。iPad の操作に長けている生徒が多く、ICT 機器を用いたグループワークや調べ学習には特に積極性を示す。協調性も高く、生徒同士で助け合う関係を築いている。

○教材観

天気の変化と大気の間を学ぶ分野である。気温や気圧などの気象要素と天気との関係を学ぶことで、天気の変化には様々な要因が関わっていることを理解させることができる。また、グラフや表の読み取りや、データの分析など数学的技術を有する分野でもあり、数字やグラフが表している現象を読み取る技能を身につけることができる。

○指導観

前時で、気象庁のホームページにある過去の気象データから、日本各地の気象要素（気温・湿度・気圧・天気記号・風力・風速）を調べている。本時では、それらをグラフにまとめ、日本における気象変化の特徴や天気と気象要素との関係を確認する。

本時でグラフにまとめる気象要素については、第1章で学んでいるため忘れていた生徒も多いと予測される。そのため、EdTech 教材のデキタスの動画を利用して振り返りを行う。また、授業のまとめにもデキタスの動画を視聴し、基本問題は自宅で行うようにすることで、その日のうちに復習する習慣を身につけさせる。

6. 指導計画

- (1) 第1章 大気のようにす …3時間
- (2) 第2章 大気中の水の変化 …5時間
- (3) 第3章 天気の変化と大気の動き …7時間（本時 5/7）
- (4) 第4章 大気の動きと日本の四季 …3時間

7. 本時の指導目標

- (1) 気象データをまとめることで、天気の変化と気象要素の関係を理解できるようにする。
- (2) 縦軸と横軸の数値の大きさに注意して、様々な気象データをグラフにすることができるようにする。
- (3) 日本の天気が西から東に変化していることを理解できるようにする。

8. 教材

教科書『未来へひろがるサイエンス2』（啓林館）
資料集や問題集『サイエンスワーク2』（啓林館）
デキタス（株式会社城南進学研究所）

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	10分	<p>1. 気象要素について復習し、本時の目標を確認する。</p> <p>本時の目標：日本各地の気象要素から天気の変化の特徴を調べる。</p>	<p>1. 気象要素に関するデキタスの動画を利用して復習させ、本時の目標を確認させる。</p> <p>(1) デキタスの動画を投影して、気象要素の復習をさせる。デキタスノート配布し記入させる。動画で確認した事項をクラスで共有する。</p> <p>(2) 前時でデータを収集したことを確認し、本時の目標を確認させる。</p>
展開 ①	20分	<p>2. グループで気象データをグラフにまとめ、天気との関係について考える。</p>	<p>2. グループで気象データをグラフにまとめさせ、気象要素と天気の変化の関係を考えさせる。</p> <p>(1) 前時で調べさせた3時間ごとの天気記号、気圧、気温、湿度をロイロノートでグラフにまとめさせる。グラフ用紙はロイロノートで全体に配信する。作成したグラフはロイロノートの提出箱に提出させる。</p> <p>(2) 特に気温や気圧と天気の関係に注目させ、変化の特徴を確認しながら作成するように伝える。</p> <p>(3) グラフができたグループは、グラフから天気の変化と気温や気圧の関係を読み取らせ、文章にまとめさせる。</p>
展開 ②	15分	<p>3. 日本における天気の変化の特徴を理解する。</p>	<p>3. 提出されたグラフをクラスで共有し、日本における天気の変化の特徴を確認させる。</p> <p>(1) 提出されたグラフから日本各地の天気の変化と気温や気圧の関係を確認させ、天気が良い時と悪い時の気圧や気温の特徴を理解させる。</p> <p>(2) 日本各地の同時刻における天気を日本地図に書き出し、日本における天気の変化の特徴を確認させる。</p> <p>(3) 天気図を示し、実際に前線が西から東に移動していることを確認させる。</p>
まとめ	5分	<p>4. 本時のまとめをする。</p>	<p>4. デキタスを利用し本時のまとめを行う。</p> <p>(1) デキタスの動画を視聴し、日本における天気の変化の特徴を確認させる。</p> <p>(2) 気圧と天気の間隔を振り返らせる。</p>

英語科 学習指導案

授業者：神戸山手女子高等学校 教諭 山田茉麗奈

Paula Angeline Reyes

場 所：334 教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35

2. 対 象： 高校1年3組 27名

3. 科目名： 英語表現 I

4. 単元名： 関係代名詞

5. 授業観について

○生徒観

授業中の活動に対してとても真面目に取り組む姿勢があり、ペアワークなどにも積極的に参加することができる。一方で、英語が得意な生徒と苦手な生徒が二極化している状況も見られ、中学の既習事項が不十分な生徒も数人在籍しているクラスである。

○教材観

関係詞の理解を欠くことは英語の運用に支障をきたすのみならず、リーディング分野の重要性が増した大学入学共通テストにおいても、正確な文章理解を妨げることになる。だからこそ、生徒は第1学年において、関係代名詞の基礎を習得し、第2学年以降においては関係代名詞を用いた文章を読解し、且つライティング、スピーキングやリスニングにおいても使いこなせるようにならなければならない。

基本的な関係代名詞については、生徒は中学校で既に学習しているが、生徒にとっては習得が困難な文法事項でもある。本時は関係代名詞の導入として、基本事項の復習を行い、スタディサプリ English を音読のツールとして用いながら、知識の定着を目指す。スタディサプリ English は個人の学習進度に応じて、4技能を習得できるようデザインされており、本校では特にリスニングとスピーキングのスキルを強化すべく導入した。

(1) 適切な音量と発音で音読することができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 基本的な関係代名詞を正しく使って、表現することができる。(外国語表現の能力)

(3) 日本語とは言語構造の異なる、英語における関係代名詞を理解する。(言語や文化についての知識・理解)

○指導観

関係代名詞は中学校での既習事項であるが、苦手としている生徒は多い。そのため、授業内でできるだけ多くの英文に触れ、しっかりと構造を理解させた上で、自然に関係代名詞を使えるようにさせたい。また、学習ツールとしてスタディサプリ English を使用するが、元来、個別最適化のための教材であり、集団授業ではその特性を活かしづらい点もある。だが、本時においてはスタディサプリ English を用いた学習方法を習得させ、家庭における学習習慣の形成をはかりたい。

6. 指導計画

(1) 関係代名詞 導入…1時間（本時1/4）

(2) 関係代名詞 基本…2時間

(3) 関係代名詞 応用…1時間

7. 本時の指導目標

(1) 主格・目的格の関係代名詞の使い分けができるようになる。

(2) 関係代名詞を用いたセンスグループ（意味のかたまり）を認識できる。

(3) スタディサプリ English を用いた家庭学習習慣を形成する。

8. 教材

教科書 『EMPOWER ENGLISH EXPRESSION I』（桐原書店）

補助教材 『英文法基礎 10 題ドリル』（駿台文庫）

スタディサプリ English 英語 4 技能コース(株式会社リクルート)

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	7分	iPad で、スタディサプリ English 4 技能コース レベル 4 のデイリーレッスンのレッスン 014 を「声が出させない」モードで演習問題に取り組む。	本時の目標を提示する。 【流れ】 ①パッセージを発話ボタンを押して音読する。 ②お手本音声聞いてセルフチェック項目に従って確認する。 ③設問音声聞いて発話ボタンを押して解答を発話する。 ④設問の解答例・解説を確認する。
展開 ①	33分	a. 主格・目的格の関係代名詞(who・which)の使い分けについて学ぶ。 b. 空欄に当てはまる関係代名詞を答える。 c. パッセージの1文ずつの音読を1回、クラス全体で行う。 d. 導入部で読んだパッセージのシャドーイングを2回行う。 e. 起立して、3分間で10回以上音読する。	a. 関係代名詞は既習事項についての復習であることに留意する。 【説明する項目】 ①パッセージで扱われている関係代名詞が文中でどのような役割を果たしているか ②who / which との違い ③主格 / 目的格の関係代名詞の使い分け b. 空欄に当てはまる関係代名詞が何か、きちんと理解できているかを確認する。問題文を通して、生徒が「気づき」を得られるように指導する。 c. クラス全体が Paula に続いて、1文ずつリピートする。 d. Paula による音読に合わせて、1回目はゆっくりと、2回目はナチュラルスピードに近づけてシャドーイングさせる。 e. 生徒自身の音読スピードを高く保つため、「3分間で10回以上音読する」という目標を提示する。速度を意識するあまり、乱雑になっていないかを確認するために、適宜机間指導を行う。自信がなく声が出てない生徒に対しては、隣で一緒に読んだり、誤った発音を正していくなどして、個別対応を行う。
展開 ②	8分	a. スタディサプリ English のお手本音声を3回オーバーラッピングする。 b. シャドーイングしたパッセージを、スタディサプリの「声が出せるモード」を選択し、個人でイヤホンマイクを用いて、実際に録音する。 c. 実際に録音した「あなたの解答」をお手本音声と比較して、セルフチェックを行う。 d. ホワイトボードで日本語訳を示しながら3回シャドーイングする。	a. bで行う録音のためにお手本に似せて発音できるように練習する。 b. 適切な音量とスピードで音読できているか、机間指導する。できていない生徒には発音に自信のない単語の発音の確認を徹底し、助言を行う。 c. お手本音声と比較しながら自己評価することにより、リズム・流暢さ・日本語(カタカナ英語)の発音などの違いを理解させる。さらに、初見で読んだ時よりも音読練習を通じて、やや流暢に読めるようになっていくことにも気付かせる。そこから、日頃の音読を通じた家庭学習の重要性についても気付かせたい。 d. 英文を見なくてもできる人は1回目から顔を上げる。3回目には全員が顔を上げてシャドーイングを行う。
まとめ	2分	a. 本時の目標を達成できているかを確認する。 b. 次回までの課題を確認する。	a. 本時の目標の再確認を行ったうえで、展開①-b で用いたスライドで復習する。 b. スタディサプリ English を用いた課題の指示を行う。

総合的な探究の時間 学習指導案

授業者：神戸山手女子中学校 教諭 永田 明子
場 所：332教室

1. 日 時： 2021年11月27日（土） 第4校時 11：45～12：35

2. 対 象： 高校1年1組 32名

3. 科目名： 未来探究の時間

4. 単元名： 観光予報データベースを活用したSTEAM&探究学習プログラム

5. 授業観について

○生徒観

本学級は、素直な性格であるものの、学業に苦手意識のある生徒が多い。しかし探究活動を通して、自信を持って人前で発言したり、独自の発想で物事を捉えたりするなど、それぞれの成長が見られている。

1学期から、初めての探究活動として、自分自身や身近な物を調べながら問題解決の手段を探っていった。自分なりに、動機→課題→仮説→検証→考察→結論の流れで、解決手段を探り、文化祭では発表を行った。また、兵庫県庁：兵庫県ビジョン若者未来講座、リクルート：高校生×Ringの探究活動プログラムにも取り組んできた。

○教材観

自身の身近な地域や事象について考察できるため、生徒が興味関心を持って、取り組みやすい教材となっている。

また、自身の地域について知ることは、多角的な物の捉え方を身に付けることができるのではないかと考えられる。観光業界におけるデータベースに実際に触れながら、テーマに対し、エビデンスを持って論理的に思考することは、将来、生徒たちにとって役立つものだと考える。

○指導観

第1次から第2次までに、観光DSの使い方や課題解決をするための提案する作業を行ってきた。第3次から第4次では、ポスターの制作を行いながら、データの分析と活用、図やグラフの挿入などICTスキルを身に付けた。さらに、論理的にまとめる手段・プレゼンテーションの手法を身に付けた。

第5次（本時）から第7次では、ジグソー法を活用し、一人ひとりの生徒が責任を持って発表し、プレゼンテーション能力も身に付けさせたい。本時の学習活動を活かして改善し、最終発表で評価し合う。

6. 指導計画（合計10時間）

- (1) 観光予報DSを操作し、データの読み方を学び、活用する。…2時間
- (2) 探究する地域を選び、データから地域の魅力や課題を絞り込む。…1時間
- (3) 様々な情報等を活用し、探究する地域の魅力の増加策や課題の解決策を考える。…2時間
- (4) 自分たちのプランを表現するポスターを制作する。…2時間
- (5) 地域の「未来を創造する新たな提案」の中間発表をジグソー法により行う。各グループの発表を聞き、お互いに意見交換をする。寄せられた意見を分析する。…1時間（本時）
- (6) 中間発表の批評を元に、提案の内容やポスターを改善する。…1時間
- (7) 最終発表を行う。…1時間

7. 本時の指導目標

各班の発表を聞き、意見を出し合う。

他班からの意見等を踏まえて、自分たちのポスター発表をより良いものにするための改善点を話し合う。

8. 教材

未来探究ゼミナールワークブック(監修：N.E.L&M)

観光予報DS・観光予報プラットフォーム

9. 学習の流れ

段階	時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	3分	【最終発表の事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業内容を確認する。 ・ジグソー法で発表を行い、付箋に意見や疑問を記入する。 ・評価や意見をワークシートにまとめ、各班で発表内容について、ブラッシュアップする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー法による発表の意味を伝える。 ・質問や意見を直ぐに付箋に記入し、各班がフィードバックできるようにすることを伝える。 ・プレゼンの代表的方法であるポスター発表の基本構成・内容を学習させる。 ・本時の活動が潤滑に進むようなワークシートを作成準備する。 ・司会者・タイムキーパーを確認させる。 ・欠席者を確認し、グループ内の人数を調整する。早く終わった班は、出された意見をまとめるなどして静かに待機させる。
展開 ①	30分	【ジグソー法による各班の発表】 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター発表を行う。 ・ポスターの基本構成・内容を理解し、自身の作成する際の構成・内容を考える。 ・ポスター発表の際の注意事項を理解し、自分が発表するときのイメージを持つ。 ・各班2分間で発表する。(質疑応答の時間・付箋の記入時間も含む。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマやポイント・参考資料を明確にし、エビデンスを明確に伝えさせる。 ・1人1つ以上の意見・疑問を出すことをルールとして、活発な意見交換の場を設けさせる。 ・発表から質問・意見の記入まで、スピード感を持って実践していくように留意させる。 ・ポスター発表に際の際のイメージを持ちながら、他班の意見を聞いていくように促す。
展開 ②	15分	【発表内容のブラッシュアップ】 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで、回収した意見・疑問を持ち寄り、改善点を検討・再考する。 ・他の班と比較しながら、自班の課題を探る。 ・ポスター内容を修正する。 ・JTB から客観的な講評をいただくことで、最終発表につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックの各評価項目を参考に、評価の着眼点を確認させる。 ・意見を分析し、良い点や改善すべき点を整理するように促す。 ・ポスター内容を修正する際に、「テーマとする内容の魅力さをさらに伝えるために」を常に意識させながら改善策を探らせる。 ・各班が専門家(JTB)からの意見をくみ取れるように留意させる。 ・ポスターの修正まで至らない班は、修正の予定を立てさせる。 ・ワークシートを活用し、自身の発表に関する振り返りを行わせる。 ・ブラッシュアップが、上手くできない班には、教員がアドバイスを行う。その際に、ヒントを小出しにするように留意する。
まとめ	2分	【本時の振り返り】 <ul style="list-style-type: none"> ・他者の発表を聞く・発表を複数回行うことでの気付きをワークシートにまとめる。 ・最終発表に向けての準備事項を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りが時間内に出来ない場合は、次回までの課題とする。 ・最終発表に向けてのブラッシュアップができているかを確認する。 ・最終発表の評価内容(ルーブリック評価)を再確認させる。

ルーブリック評価

国語科		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	歴史的仮名遣いの習得	ハ行転呼音、ゐ、ア段音＋う、イ段音＋う、オ段音＋う等を習熟できている。	ハ行転呼音、ゐ、ア段音＋う等を習熟できている。	ハ行転呼音、ゐを習熟できている。	ハ行転呼音、ゐの習熟までには至らなかった。
思考・判断・表現	音読の状況	歴史的仮名遣いや文節・単語の切れ目に気を付け、内容に即した音読ができた。	歴史的仮名遣いや文節・単語の切れ目に気を付け、音読ができた。	歴史的仮名遣いに即した音読はできた。	歴史的仮名遣いに即した音読がまだ不正確であった。
主体的に学習に取り組む態度	本文内容を習得・理解	主述の関係に即して助詞を補い、古語の意味を理解し、現代語訳を自分で完成させることができた。	主述の関係に即して助詞を補い、古語の意味を理解し、現代語訳をほぼ完成させることができた。	主述の関係の理解、古語の意味の理解のいずれかができていた。	主述の関係の理解、古語の意味の理解はできなかったが、文脈は掴めた。
ICTスキル	個別最適化教材としてのデキタスの使用状況	適したスピードで視聴し、デキタスの問題がおおむねできていた。	適したスピードで視聴し、デキタスの問題に意欲的に取り組もうとしていた。	動画授業を視聴し、デキタスの問題に取り組めていた。	動画授業を視聴していたが、デキタスの問題に取り組めてはいなかった。

社会科		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	デキタスを使って復習することで、3年間の知識を定着できている。	基本問題をクリアし、チャレンジ問題で8割以上の正答率になっている。	基本問題をクリアし、チャレンジ問題に取り組んでいる。	基本問題を解いて、間違っただ部分の解説を確認している。	基本問題を解いて、苦手な分野の○×チェックを解いている。
思考・判断・表現	クラゲチャートというシンキングツールを使い、貧困問題の背景・原因をまとめる。	クラゲチャートに入れる言葉を自分で考えて書き出し、貧困の実態に結びつけられている。	クラゲチャートに入れる言葉を教科書から抜き出し、貧困の実態に結びつけられている。	クラゲチャートに入れる言葉を教科書から抜き出せている。	クラゲチャートに入れる言葉を教科書で探している。
主体的に学習に取り組む態度	フェアトレードを含めた貧困問題の解消策について、意欲的に方策を考え、課題に対して追究している。	フェアトレードの利点に加え、問題点まで考えている。問題解消のための取り組みを答えて実践しようとしている。	フェアトレードで解決できる内容の理由を2つ以上考える。問題解消のための取り組みを答え、発表できている。	フェアトレードで解決できる内容の理由を1つ考える。問題解消のための取り組みを答え、表現できている。	フェアトレードで解決できる内容を選ぶことができ、問題解消のための取り組みを考えようとしている。
ICTスキル	ほぼ日のアースボールを使用して、コーヒーそのものや生産、消費について知識を増やし、まとめられる。	「でこぼこコーヒー」を操作し、生産国と消費国の格差を読み取り、地理的・歴史的背景からアフリカの産業の特徴とつなげられる。	「でこぼこコーヒー」を操作し、アフリカで最も生産量の多いエチオピアの特徴を調べ、まとめられている。	「でこぼこコーヒー」を操作し、おいしいコーヒーが作られる気候を読み取れている。	「でこぼこコーヒー」を操作し、コーヒーベルトの位置と特徴を調べられている。
	デキタスを用いて、地理的分野(アフリカ州)と、公民的分野(経済：消費・生産・労働)についての理解と知識の定着を自主的に確認できている。	指示された範囲を、担当者に提出した後、デキタス内の解説を読み、チャレンジ問題まで満点クリアしている。考査や模試に向けて繰り返し学習し、その結果を担当者に報告している。	指示された範囲を、担当者に提出した後、デキタス内の解説を読み、キミ問を100%クリアしている。各自の進度に合わせて学習を進め、担当者に報告できている。	指示された範囲を時間内・期限内に解き、担当者に提出することができている。	指示された範囲を時間内・期限内に解こうと努力し、途中段階であっても、担当者に提出している。

数学科		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	接線の公式を理解し、問題を解くことができる。	接線の公式を用いて、応用例題1を解くことができていた。	接線の公式を用いて例題3を解くことができていた。	接線の公式において微分係数が接線の傾きに置き換えることができていた。	接線の公式を覚えていた。
思考・判断・表現	曲線上の点か曲線外の点を用いて接線の方程式を求められる。	与えられた点が曲線上か曲線外かを区別して接線の方程式を求められていた。	接点の座標が不明の場合、x座標を文字を用いて表し、接点の座標を表現できていた。	$f'(a)$ と $f(a)$ の違いを理解して、接線の傾きと座標を求められていた。	接線の傾きが微分係数と同じであることを理解し、 $f'(x)$ を求められていた。
主体的に学習に取り組む態度	ドリルやQubenaに積極的に取り組むことができる。	練習問題やQubenaに取り組み、積極的に周りの生徒を教えていた。	練習問題やQubenaが自分で解けていた。	練習問題を自力で解けていた。	練習問題を解くために積極的に質問していた。
ICTスキル	Qubenaに積極的に取り組むことができる。	ワークブックが終了したらマスターで間違えた部分を復習していた。	ワークブックを終了し、ラーニングまで取り組んでいた。	ワークブックを最後まで取り組んでいた。	ワークブックに取り組んでいた。

理科		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	気象要素と天気の変化との関係を理解し、科学的に探究するために必要な技能を身につけている。	気象データの理解とそのグラフ化ができ、気象要素と天気の変化の関係を十分理解している。	気象データをグラフに表すことができ、気象要素と天気の変化の関係をおおむね理解している。	気象データをグラフに表すことができるが、気象要素と天気の変化の関係をあまり理解できていない。	気象データをグラフに表すために支援が必要であり、気象要素と天気の変化の関係を理解できていない。
思考・判断・表現	気象要素の分析を通して、気象要素と天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現している。	気象要素と天気の変化についての規則性や関係性を見いだして、自分の言葉で詳しく説明することができる。	気象要素と天気の変化についての規則性や関係性を理解し、自分の言葉で説明することができる。	気象要素と天気の変化についての規則性や関係性について、教科書等の言葉を利用して説明することができる。	気象要素と天気の変化についての規則性や関係性を説明することができない。
主体的に学習に取り組む態度	学んだ事柄を進んで復習し、理解しようとする。	自ら進んでデキタスで動画やキミ問を利用して復習している。	デキタスの○×問題を利用して復習している。	教員の働きかけを受けて、デキタスの○×問題を利用して復習している。	教員の強い働きかけがないとデキタスを利用できない。
ICTスキル	ロイロノートを利用し、気象データの分析を積極的に行っている。	ロイロノートを利用した気象データ分析を積極的に行い、他の生徒に教えている。	ロイロノートを利用した気象データの分析を積極的に行っている。	他の生徒の教えてもらいながら、ロイロノートを利用した気象データの分析を行っている。	教員の支援がないとロイロノートを利用したデータ分析ができない。

英語科		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	関係代名詞の使い分け	関係代名詞を正しく使って、基本的な文章を作ることができる。	主格・目的格を正しく判断することができる。	who/whichの使い分けができる。(先行詞が人か物かを区別でき、使うことができる。)	先行詞がどれかを判断することができる。
思考・判断・表現	音読	モデル音声を使わずに、正しいイントネーションで音読することができる。	正確にシャドーイングができる。	モデル音声に合わせて、オーバーラッピングができる。	モデル音声が続いてチャックごとに音読することができる。
主体的に学習に取り組む態度	授業への積極的な参加態度	教員の発問に対し、指名されなくても、挙手して適切に答えることができる。	教員の発問に対し、指名されれば、適切に答えることができる。	課題文について、教員の発問に対し、指名されたとき、教員の助けを借りて答えることができる。	教員の指示を聞いて、ただちに反応し作業を行うことができる。
ICTスキル	スタディサプリの利用	日常的に活用しているため、授業内でもスムーズに操作することができ、周囲の生徒にも操作方法をアドバイスすることができる。	日常的に活用しているため、授業内でもスムーズに操作することができる。	操作に不慣れは残るが、積極的に使いこなそうとしている。	教員の説明を受ければ、的確に操作することができる。

探究		評価基準			
評価項目		レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
観点別評価	小テーマ	十分に満足	おおむね満足	努力を要する	努力と支援を要する
知識・技能	データや情報の見極め	データや情報を元に発見した「課題解決」を提案している。 *現実的、効果的な解決策である。	信憑性を評価しながら複数の情報を活用し、説得力を高める。	異なる視点から比較や分析ができる。リストアップした項目から絞り込むことができている。	観光予報DSを含む複数データから考察し、問いの答えを発見している。
思考・判断・表現	発信力	見る側を惹きつけるポスターとして表現されている。コピー、構成、配色が優れている。	他者の意見を参考に、さらに良いポスターにするために修正(改善)していく姿勢がある。	キャッチコピーや画像などの素材の選択とレイアウト等に、独自の工夫が見られる。	サンプル作品の特徴を理解し、収集した素材などを適切に配置している。
主体的に学習に取り組む態度	探究活動に対する意欲	街や地域の将来に貢献する意識を持ちながら、主体的・協働的に探究している。	自らの役割を積極的に果たし、チーム内の課題を解決しようと仲間と働かかけている。	主体的に活動している。学習内容の不明点などを他者に聞き、解決しようとする。	自らの役割を果たそうとしますが、消極的な姿が見られる。
ICTスキル	ICT機器の運用力	作成したポスターをPDFや画像ファイルに変換できる。 必要に応じて画像の編集ができる。	グループのメンバーとファイルを共有し編集している。	フォントや配色などが適切である。ファイルに日付や版数を加えて管理している。	観光予報DSの基本操作ができる。ポスター作成(スライド作成)の基本操作(用紙設定、図の挿入等)ができる。

教育シンポジウム会場図

